

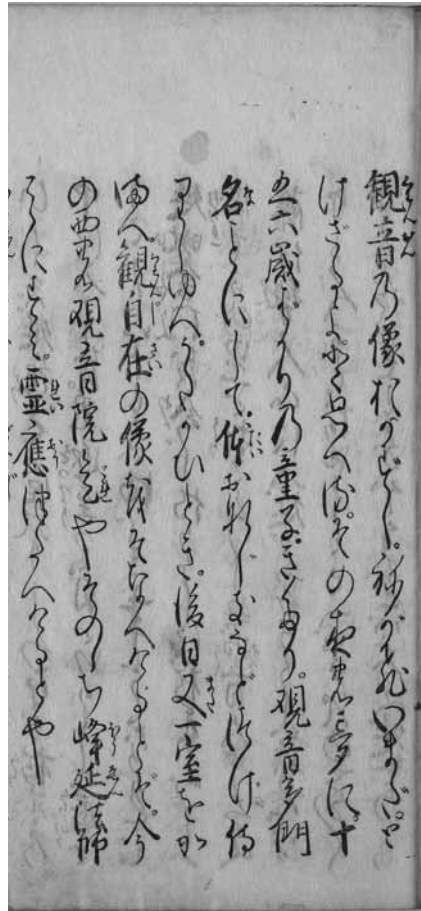
京都府立総合資料館蔵

鞍馬寺

○ 此寺、都より三里許りなる
 鞍馬山、大中大夫藤原氏の領地なり。勝地と
 大史、仙居と云ふ。観音像、安坐せんとて
 見ゆ。像をかく。観音像、安坐せんとて
 思ふ。是處の、或人の、手に成れば、
 白く、白く、白く、白く、白く、白く、
 告げ、白く、白く、白く、白く、白く、
 大史、中にも、名を、いへば、玉成、鎮守。

貴船の神やさめく、いへば、とて、
 此の、大史、久しく、白馬、鞍馬、
 いへば、いへば、磨騰、御、舎、神、像、
 馬にの、世、震、旦、に、いへば、
 一、童、子、を、いへば、
 山、阿、乃、茅、乃、
 け、
 像、
 鞍馬寺、

京都府立総合資料館蔵



京都府立総合資料館蔵

鞍马寺

这座寺院在京都北面大约三里的地方。鞍马寺是大中大夫藤原伊势人所建。大夫一心向佛，一直希望能找到一处适合供奉佛像，供人修行的土地来安放观音菩萨的塑像。

延历年间，大夫某晚做梦来到京都北边的山地，遇见了一位白发老人。白发老人告诉他这块土地是世上罕有的宝地，山的形状好像三钻杵，总有五色祥云笼罩其间，正是所谓灵异之地。你若在此地修建庙宇，一定会功德无量。大夫在梦中询问老人的名字，原来老人是王城京都之地的守护神贵船明神。大夫从梦中醒来，不知道那到底是什么地方，于是给养了很多年的白马配上马鞍，对它说：据说当年摩腾和法兰就是用白马把佛舍利、佛像和佛经运到中国的，也就是说白马是有灵力的家畜，你一定知道梦中的土地在哪儿。然后就让一个童仆跟上白马，把白马放了出去。那匹马从京都一路向北，在一处位于山间、草丛茂密的地方停了下来。童仆回来报告以后大夫前去查看，果然和梦中看到的一般无二。大夫还在草丛中发现了一尊毗沙门天王（多闻天王——译者注）的塑像，于是就在那里修建了一座佛堂，把毗沙门天王像安放在那里，并把寺院命名为鞍马寺。但是大夫供奉观音菩萨像的夙愿还没有实现。这天夜里，一个十五六岁的童子出现在他的梦里，告诉他观音菩萨和毗沙门天王虽然名称不同，但是毗沙门天王其实也是观音菩萨的化身。于是大夫不再疑惑，日后又修建了一座佛堂，把观音菩萨像供奉其中。也就是现在鞍马寺西边的观音院。后来峰延法师在这里做主持，鞍马寺所具有的神奇力量也就一直流传了下来。

（張 凌志 訳）

【現代語訳】

この寺は都から三里ほど北にあります。鞍馬寺は大中大夫であった藤原伊勢人が草創した所です。大夫は仏を尊ぶ思いを深くして、ひたすら仏にふさわしい優れた土地を選んで修行の場を設け、観音像を安置しようと思っていたのです。

延暦の時代、或夜の夢の中で、都の北山に行き、白髪の老人に出会ったところ、その老人が大夫に告げてこう言うのです。この地は世に優れた地であって、山は三鈷杵の形に似ていて、いつも五色の雲がたなびいており、まさに靈妙の土地なのです、そなたが寺を建てれば、その御利益は計り知れませんが、大夫が夢の中で老人に名前を尋ねたところ、王城の地の守護神である貴船明神なのでした。夢が醒めて、大夫はその場所がどこなのかわからなかったので、長らく飼っている白馬に鞍を懸けてこう言いました。

昔、摩騰と法蘭は仏舎利、仏像、経典を白馬に乗せて中国に運んで来たという。つまり白馬は霊力を持った家畜なのである、お前はきっと夢の中の土地がどこなのか知っているに違いないと。そこで、一人の童子を添えて放したところ、その馬は都の北に向かい、山合いの草深い土地に留まったのです。童は帰ってこのことを告げたので、大夫が行ってその土地を見ると、夢の通りであり、しかも草むらの中から毘沙門天像を見つけたのです。そこで一堂を建ててその像を据え、それをこそ鞍馬寺と号したのです。しかし、観音像を置かないままで、念願はまだ果たしていないことよとっていました。その夜の夢に、十五六歳ほどの童子が現れて、観音と多聞天（毘沙門天）とは名前こそ違いますが、本体は同じなのだと言ったことから、疑いを晴らして、後日、また別に一堂を設けて観音像を安置したということです。現在、鞍馬寺の西にある観音院がその一堂です。その後、峰延法師がここに住んで、この靈驗を伝えたのです。

(山崎福之)